



「手をつなぐ男女共同参画」

ウィルあいち交流ネット参加グループ

「交流ネットって何?」。2001年春、県の第5回愛知県男女共同参画社会支援セミナーを修了した私たちの新グループ「ウィル2000」は、ウィルあいちから「今度、交流ネットを作るから入って」と誘われました。「どんな人たちが来るの? 何をするの?」と思いながら参加しました。

振り返れば、新しい男女共同参画という概念にとまどいながらも基本法を学び、世の中は着実に変わると心を躍らせていた時期でした。ウィルあいちの男女共同参画の拠点センターとして、女性のエンパワーメントの中心でした。私たちも、「男女共同参画」を、自分自身や身近な問題と結び付けて理解し始めました。

ウィルあいち交流ネットは各グループの意見や活動を集めた「交流ネット通信」を発行し、新しい情報誌として好評を得ました。ウィル2000も熱心に活動報告を書き送りました。

しかし、その後日本の男女共同参画は激しいバッシングに曝され、経済不振の中で予算も次第に減らされました。それでも、より具体的な課題として「ワーク・ライフ・バランス」や「あらゆる分野での男女共同参画」が上げられ、科学・防災等への女性の進出、家事・育児への男性の参加を推進する活動も始まりました。女性の社会進出への理解も幾分進みました。

とはいえ、今私たちに「女性が生きやすくなった」という実感があるでしょうか。世界経済フォーラムの「男女格差」ランキングで、昨年日本は98位でした。日本では「女性が本当にリーダーシップを取る」ことは困難なのです。では、私たちはどうしたら良いのでしょうか?

私は、今女性に必要なのは、社会的に堂々と意見を言い、しっかりとリーダーシップを取る勇気だと考えます。それをバックアップするのが「手をつなぐ男女共同参画」つまりネットワークの意識と存在です。同じ目的を持つ私たちは、しっかりと手をつなぎたいものです。

交流ネットは結成後11年立ちました。年ごとに工夫を凝らし、良い啓発活動を続けたと思います。その間「愛知県女性総合センター・ウィルあいち」と「あいち男女共同参画財団」の重要性も広く認められて来ました。私は、「女性センター」と「交流ネット」が互いの存在の意義をどこまで認識するか、しっかり活用するかが、互いのために、ひいては県下の男女共同参画推進のための一つのカギとして、注目すべき大切な問題だと思います。今後とも「交流ネット」が、センターに結集する人々の中にある重要なネットワークでありつづけることを期待しております。

ウィル2000 森田登喜子

- *さわらび会
- *メンズリブ名古屋
- *ア・コール
- *女性学'98の会
- *IPA
- *メディアの会かたつむり
- *ウィル10
- *A・B・C・Net
- *C・C・C
- *グループ・キートス
- *クラリネット'99
- *2000女性学の会
- *ウィル2000
- *I. W. L
- *ウィル・ミニ・ボックス
- *めだかつこ
- *ウィルLove
- *ウィルDo2002
- *平成いちご会
- *きらら2005
- *サーティネット '05
- *ベリーズ18
- *Step07
- *トライアングル '08
- *まちづくりファシリテーター勉強会
- *Fem.'09
- *Amelie'10

ウィルあいち交流ネットとは...

ウィルあいちセミナー等の受講修了生による自主活動グループで組織された団体です。

東日本大震災から学んだこと

昨年3月11日の東日本大震災から1年が過ぎました。一瞬にして当たり前の日常生活から放り出されてしまった、被災者の皆さんの苦悩には計り知れないものがあります。私も現地へボランティアとして参加しましたが、なかなか進まない復興への道のりを歯がゆく思っている一人です。

翻ってここ東海地方でも、近い将来必ず来ると言われている東海・東南海・南海地震について、東日本大震災後の研究成果を反映させた震源域の見直しがされ、南海トラフの最大想定M9と被害想定も大幅に変更されました。国や自治体の取り組みも早急に進められるはずですが、私達一人ひとりも防災・減災のために備えることが必要です。

男女共同参画の視点から、東日本大震災から学んだことは

・避難所では、女性の立場にたった配慮が必要であること

乳幼児を抱えた女性や、高齢者や障害のある女性への配慮が足りない。授乳や着替えの場所、洗濯した下着の干し場などの確保とともに、トイレも男女別に分けて使用したい、など精神的な苦痛になることは極力取り除き、避難所運営に関わってもらおう。

・地域での自主防災計画に積極的に女性に参画してもらおうこと

男性主導の避難所運営だけではなく、女性のニーズに合わせた運営も考える。話し合えば、男女別の更衣室の設置やトイレについても男性の理解が得られ、女性は掃除と炊き出し担当という形骸化された役割分担だけには終わらない運営ができる。

このためには、日頃から地域での仲間作りや助け合いの意識を持って行動し、今後の防災計画について、積極的に女性の視点を取り入れた対策を取っていくことが必要だと考えます。明日は我が身と考え、今こそ地震や津波に対する万全の準備が大切になりました。

最後に私たちの活動グループである「ア・コール」の会を紹介します。「ア・コール」の会は、平成9年度男女共同参画社会支援セミナーの修了者によって結成されています。現在、会員は16名です。相談役と顧問が2名加わり、年に2・3回みんなで集い、親睦を図りながら近況や活動の報告会を開催しています。

結成から15年経ち、皆、相応に年齢を重ねましたが、社会や地域のためにそれぞれの立場でハツと活躍している方が多く、いつも刺激を受け気づき、学ぶことの多い仲間の会でもあります。

ア・コール 森 千代子

[編集後記]

新年度が始まりました。

今年こそは余裕をもって仕事を頑張りたいと思います。

気候の変化が激しいので皆さん、体調には十分気をつけてください。

S . I

編集発行：ウィルあいち交流ネット

編集協力：(公財)あいち男女共同参画財団

企画協働課協働担当

電話 052-962-2512 F A X 052-962-2477